

月刊反トマホーク通信

No. 38
88. 12. 20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095
044(63)5101

민중 속으로

民衆の中へ



「韓半島の平和と統一のための世界大会」資料集より

[特別報告]

韓国の反核平和運動

徐東晩

核艦船とたたかう港の人々

— サンフランシスコ/メルボルン

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口
2000円

あなたも仲間にも！（会費は本誌購読料を含みます）

一九八九年こそ

太平洋の非核・自立の

潮流につらなるろう

港だより

（地上）INF撤廃条約を生んだ軍縮への流れは、ヨーロッパでは通常兵器の分野にまで広がろうな気配です。しかし、その一方でアジア、太平洋では何が起きているのでしょうか。今年私たちが日本で経験していることを見てみれば、その答えは余りにもあきらかでしょう。

八月には、トマホーク搭載艦ファイブとパンカーヒルが横須賀を母港にしました。横須賀、佐世保、沖縄への原子力潜水艦の年間入港数は新記録に達しました。十二月十三日にはトマホークの垂直発射装置を持った原潜としては初めて、ルイスビルが横須賀に入港しています（十ページ「反核ホットラインだより」参照）。

問題はトマホークだけでも核兵器だけではなく、通常兵器、指揮・管制・通信（C3I）体制、支援機能：あらゆる側面からみて、私

●メルボルン

港湾労働者、核艦船を止める！

っている。

その抗議行動のハイライトとでもいうべき快挙が、メルボルンで実現した。十月十四日、メルボルンに入港する予定だったイギリスの核搭載艦、アークロイヤルとフォート・グラウンジェが港湾労働者がタグ（艦船を引き船で接岸させる仕事）を拒否したため、ついに接岸できず、ポート・フィリップ湾を二日間「漂流」したあげく、一切の行事をキャンセルして去っていったのである。海が荒れていたため、タグ無しで接岸する、というウルトラCもままならなかった。

二ヶ月前の入港予告を受けて、現地の市民



建国二百周年を迎えたオーストラリアでは記念行事として、各地の港に世界中の軍艦を集めてセレモニーを開催している。その中には当然、イギリスやアメリカの核艦船が含まれており、いたるところで人々の抗議行動に会

と労働者は入港反対キャンペーンを始めた。港湾地区の十二の労働組合からなる「核艦船に反対する労働組合連絡会」は、ドックからタンカーを引き出して核艦船の針路を阻んだ。マルタの労働者に続け！と、タグを拒否して

●サンフランシスコ 住民投票、僅少差でミズーリを受け入れ

しかし、母港化計画の前途は多難

サンフランシスコ市では、十一月八日の大統領選挙の日、戦艦ミズーリSAG（水上打撃団）のサンフランシスコ母港化案に対する住民投票が行われた。投票は、母港を要求する海軍に好意的なS法案と、母港に消極的な現アグノス市長の提案するR法案とについてそれぞれ賛否を問うものであった。

S法案は母港推進派であった前フェイスユタイン市長が海軍と交わした強制力のない合意をサンフランシスコが実行する、というもの。この合意とは、市がハンターズ・ポイント区域の改善をし、最初のしゅんせつ工事費二百万ドルを前払いするというもの。S法案は五十一・二％対四十八・八％という僅差で賛成多数となった。

R法案は、連邦政府が全費用を受け持つというもので、海軍はこの案だと母港を他に移動させるを得なかった。R法案は四十五％対五十五％で反対多数となった。



私たちはすさまじい軍拡、戦争準備の中に暮らしている。そしてこの戦争準備の総仕上げともいえるべき「太平洋演習」が、おそらくは日米韓三国の合同演習として、来年の秋に予定されています（前号「にゅうす・すびりつ」参照）

チーム・スピリット、八十九年も実施

気になることがあります。来年の米韓合同演習（チームスピリット89）がどうなるのかということ。今回も、この数年いつもそうであるように、中止、決行の二説があります。これを「海の軍備撤廃を！太平洋運動」のパティ・ウィルスさんに尋ねたところ、米軍の担当部署に問い合わせしてくれました。答えは「八十九年もやります。ただし中身はヒミツ」。民主化と統一を願う人々の声が、もう押えようもなく人々の間にみちみちている韓国・朝鮮半島で、わがもの顔で核戦争まで想定した、最大規模の戦争の練習やる権利が一体だれにあるのでしょうか。この演習のために日本が基地を全面提供し、自衛隊が実質的には参加することまで許してしまっているのは、一体だれでしょうか。ひとごとではありません。来年こそ、なんとかしたい、そう

思いませんか？



韓国の反核 平和運動

第10回全国会議における報告

ソ・ドンマン
徐東晩(現代史研究所)

カットは「五月版画詩集『奪われざるうた』」より

韓国の民主化闘争には長い歴史があります。民主化運動は朝鮮半島の分断状況を克服しようという運動ですから、それ自体が広い意味での平和運動だと言えます。しかし、本格的な意味での平和運動がおこってきたのは八十年代に入ってから、それもこの二、三年のことです。八十年五月の光州民衆蜂起以来、反米運動が広がり、続いて朝鮮半島の核状況についての認識が民主化運動の中に根を下ろすようになったのです。

野放しの核配備の現状

現在軍事境界線(休戦線)をはさんで南北あわせて一三〇万の武装軍人が相対しています。「ミリタリーバランス」によれば南が六十万人、北は七十二万人です。それ以外にも予備軍と民間防衛隊が組織されています。朝鮮戦争は公式的にはまだ終わっていません。まだ休戦協定だけで平和協定は結ばれていない状況なのです。アメリカが核兵器を配備しているのは明らかに休戦協定違反です。

移したのは、言うまでもなく青年・学生運動でした。最も劇的な事件は八十六年の四月、二人のソウル大学生、金世鎮(キム・セジン)、李載虎(イ・ジェホ)の焼身自殺でした。この二人の青年の焼身自殺が韓国の反戦・反核・平和運動のきっかけになった。彼ら二人が叫んだのは、「反戦・反核・ヤンキーゴーホーム」の一言でした。

なせ八十年代になってから爆発的に反戦反核平和運動が現れることになったのか。そこには韓国におけるきびしい分断構造が横わっています。まず初めに韓国における核状況について、簡単に事実だけ触れておきます。

の多い南の港に自由に停泊しています。それらの軍艦は核兵器を搭載した飛行機をもって、しばしば軍事訓練を行っています。アメリカの軍事戦略家たちは、朝鮮半島での核戦争は可能だと信じており、実際の軍事行動計画の中にも核兵器の使用が組み込まれています。核兵器の使用に関しては、朝鮮半島にはNATOのような、アメリカの軍事政策を監督できる機構がありません。また韓国政府は、アメリカの朝鮮半島での核戦略の細部に対して全く手をふれていない状況で

す。韓国政府はこの問題に取り組むのを嫌っています。しかも朝鮮半島におけるアメリカ軍事政策に関するあらゆる公開的論議は禁止されてきました。さらに問題なのは、南に配置されているアメリカの核兵器に対する規制力を持っている条約や協定が全くないということ。ほんとにとんでもない状態なのです。アメリカが配備している核兵器は全面的に在韓米軍司令官の作戦統制のもとにあります。つまり、核兵器の使用の決定は完全に在韓米軍司令官の手に握られているのです。

「核問題」のすべてを背負った国・韓国

次は原子力発電の問題です。現在韓国の原子力発電所は九号基まで建設され、そのうち七基が稼働中です。全発電電力五七〇〇メガワットのうち五十三%が原発によるものです。政府の宣伝は原発は公害もないし、費用も経済的だというのですが、原子力発電所の経済性や安全性は深刻な問題になっています。

し、建設の費用や、廃棄物の処理問題については全く討議されていない。また原発の建設過程の問題があります。今、第五共和国の非理不正問題で、全斗煥に対する追及が行われていますが、その最大の焦点となっているのは十一号と十二号の原発の建設をめぐるアメリカの会社との不正の問題です。

安全性については、七十八年から八十八年までのあいだに原発の事故や故障の件数が百九十三件に達しています。これは今度の韓国の国会の討議の中で出た統計です。しか

次は被爆者問題。もう常識になっているでしょうから簡単に話します。広島・長崎の被爆者四十万人の中に、五万人の朝鮮人・韓国人の死亡者がいたことはみなさんご存じのとおりです。負傷者が五万人



戦闘的な興(ホ・ソングム作)

うち二万三千人が戦後帰国しました。その中で現在一万九千人が生存しているという統計があります。しかし、今でもまだアメリカや日本からは一銭の補償も受け取っていない状態です。

核兵器・原発・被爆者——この「核の三位一体」、核問題のすべてを韓国は背負っています。しかしもっと大きな問題は、これらが朝鮮戦争以来三十五年間、冷戦・分断構造によって制度化されてきたことです。核を合理化する論理が民衆の側からも疑問も無しに受け入れられてきたことです。核問題は完全に

をやっていた団体、あるいは「公害追放青年協議会」。この二つが今年八月に統合されて「公害追放運動連合」が発足しました。この団体は市民運動・青年運動の組織として自らを位置づけながら、公害地域の住民、原発地域の住民に対して教育、広報活動、組織活動を展開しています。これが住民運動の組織につながるのではないかと思われます。一方、医師の団体として「人道主義実践医師協議会」、薬剤師の団体として「健康実践薬剤師協議会」というのがあります。また理科系学生とか技術系の専門家を中心として「青年科学技術者協議会」という団体が活発に活動しています。一般市民を対象とした核問題の講座を開くほか、被爆者救援とか漁民を対象とした治療活動、あるいは産業災害の問題まで幅広い活動をやっています。

さらに韓国人被爆者の実状を告発し、補償問題に関して努力する、あるいは被爆体験を記録することによって核問題を提起する運動があります。日本の反核平和運動が「ヒロシマ・ナガサキ」の被爆体験をその原点に置いていることは、世界の平和運動にとって非常に大きな意味を持っています。しかし、皮肉なことに今までの韓国は同じ原爆の被害者でありながら同時に反核運動がおこっていない唯一の国だったので、中心的な団体は日本

以上の運動の主体はかならずしも大衆的ではなく、知識人層に限られた運動でしたが、このころは注目すべきこととして底辺の民衆の運動が始まりました。それは主として基地反対運動として展開されています。

韓国の西海岸、忠清南道(チュンチョンナムド)、朝鮮半島の中西部ですね、そこに瑞山群(ソサングン)海美面(ヘミミョン)というところがあります。政府はここに空軍基地を設置する計画を農民に対して一方的に通告し、二〇〇万坪の土地を軍事保護地域とすることを決めました。それに対する反対運動

底辺民衆の生存権をかけた反基地運動

最近では被爆二世の運動が盛んになっています。たとえば演劇「ヒバクシャ」の公演(本誌第十三号(八六年十一月二十日発行)に関連記事:編集部)などの自主活動を通じて反戦反核運動に加わっています。遠くない将来、被爆者運動が反戦平和運動の重要な担い手になるのではないか、なるべきだ、と思います。

被爆者運動について話すときに見逃してはならない紹介されている「韓国原爆被害者協議会」です。

最近では被爆二世の運動が盛んになっています。たとえば演劇「ヒバクシャ」の公演(本誌第十三号(八六年十一月二十日発行)に関連記事:編集部)などの自主活動を通じて反戦反核運動に加わっています。遠くない将来、被爆者運動が反戦平和運動の重要な担い手になるのではないか、なるべきだ、と思います。

が起っています。軍事保護地域になると土地の販売や新規建設が禁止されます。今度の国会に出た資料では、現在韓国の総面積の七・五%が軍事保護地域になっています。私も非常に驚きました。十分の一に近い広さです(注)。瑞山地域には十五の村、六〇〇世帯に三千人の農民が暮らしています。六月七日、農民は一五〇〇人の闘争委員会を組織して「空軍基地設置決死反対」を掲げてデモを行いました。また六月二十七日にも一〇〇〇人がデモを行っています。この基地計画については、フィリピンのクラーク空軍基地やスー

反核平和運動の担い手たち

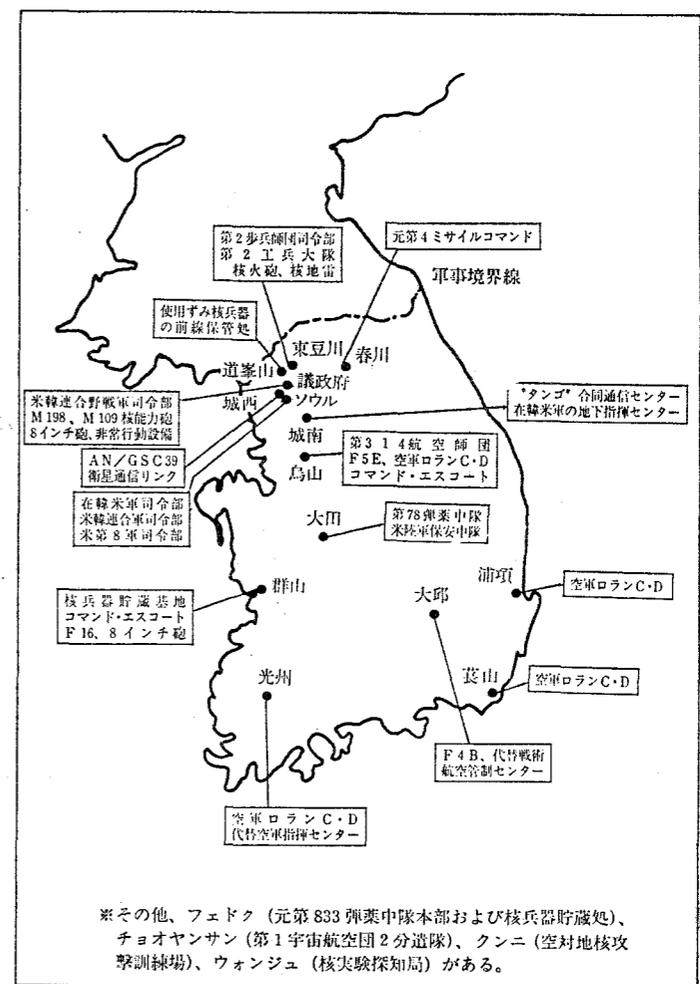
現在の反核平和運動について概略的に話します。いくつかの傾向を取り上げたいと思います。これは最近韓国の民主言論協議会の「マル」という雑誌にすこし紹介されていて、NCC(日本キリスト教協議会)の「韓国通信」にも翻訳されています。他にもいろいろな資料が出ていますからそれらをあわせて説明します。

まず、朝鮮半島の冷戦・分断構造に核問題の根源を見いだして、「核兵器撤収」「在韓米軍撤収」そして「休戦協定の平和協定への転換」「南北の軍縮」などの実現、また「朝鮮半島さらには東アジア・太平洋地域における非核地帯」を実現しようという運動があります。今、学生運動を中心とする在野民主化運動の、中でも統一運動がこの方向を

目指しています。あらゆる運動団体が平和運動を自分の重要な課題としています。その例として各大学には学生会のもとに、あるいは在野運動の中に「祖国統一特別委員会」が作られています。それらの中で「統一運動」の一環としての「平和運動」が行われています。それらの中で特に反戦平和運動を中心にしていいるのは、焼身自殺した二人の学生(金世鎮、李載虎)を記念して作られた「金世鎮・李載虎烈士悼慕事業会」という団体です。最も戦

闘的な団体だと思えます。次には市民運動的な特性を備えつつ問題を大衆的に拡散させようとする運動団体があります。もちろん核兵器についての政治的な認識はさきの団体と共有しながらも、科学技術についての問題提起や、エコロジカルな認識を含めて公害問題の一環として、原発問題などを中心として運動を広げている団体があります。たとえば「公害問題研究所」(日本にも来られた雀列(チョエ・ヨル)さんが所長

駐韓米軍の核関連基地



(W・アーキン、R・フィールドハウス著「Nuclear, Battlefields」より複製)

反核ホット ライン⑨

だより

入港情報

- 11・16、12・15
- P級 (原子力潜水艦パーミット級)
- S級 (原子力潜水艦スタージョン級)
- L級 (原子力潜水艦ロサンゼルス級)
- (11・21) ガードフィッシュ(P級) 午後0時30分 横須賀を出港
- (12・9) ガードフィッシュ(P級) 午後11時30分 横須賀に入港し、11時40分出港
- (12・13) ルイスビル(L級) 正午 横須賀に入港

* 15日現在で各港への原子力艦の入港回

数は、

横須賀	26回(うち原潜26回)
佐世保	6回(うち原潜6回)
ホワイトビーチ	11回(うち原潜11回)
計	43回(うち原潜43回)

●原潜用垂直発射台早くも入港

12月13日に横須賀に入港したルイスビル(ロサンゼルス級原子力潜水艦)に注目して下さい。NHKがテレビで入港の映像を流したのでご覧になった方も多いいと思いますが、実はこの潜水艦の入港は私たちにとても大変なショックでした。

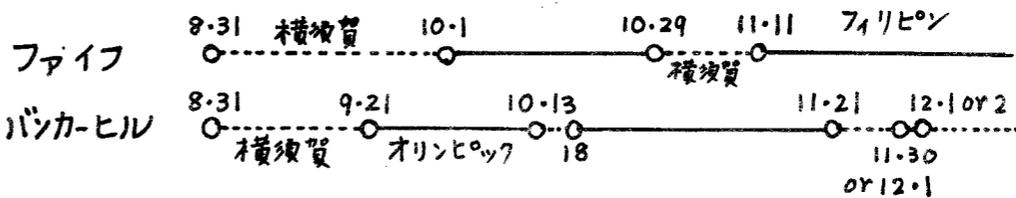
この船にはトマホークの発射台としては最も新しい型の潜水艦用垂直発射台であるカプセル発射システム(CLS)が装備されています。日本ではもちろん、この型の船の入港は初めてのことでです。

今年四月のアメリカの議会資料によれば、CLSはピッツバーグという潜水艦で実験配備テスト中ですので、実際にルイスビルのCLSがトマホーク承認済みかどうか疑問です。しかし、この新型艦が早くも横須賀に姿を見せたことは、私たちに驚きと危機感をつのらせます。

不気味に動く

(12・15現在 鈴木良調べ)

トマホーク艦ファイブ、バンカーヒル



原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗語番号 1071
クロハ イレナイ

すずきゆい

「同時多発型有事」研究始まる 「ガイドライン十年目で研究、演習、法制揃い踏み」

十年目の「本音」

去る12月24日、自衛隊の石井統幕議長は「近隣での紛争が日本に波及してくる場合」いわゆる「同時多発型有事」の日米共同研究を開始すると発表した。この研究は年内には着手されるという(「朝日」12月11日)。この研究は78年11月に合意された「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」に基づく一連の研究の一つとして行われるものである。それにしても「同時多発」という表現は分かりにくい。これについて日本側は「中ソ国境や朝鮮半島の紛争が日本に波及する」と説明しているが、これは「集団的自衛権問題」での野党の追及をかかわすため、実際には「日本有事は米ソ対立のなかで起こりうる」という米側の認識が基本にある(「朝日」12月11日)。この「軍事上の常識」はこれまで「国内政治上の配慮」(防衛庁筋)から大っぴらにできなかったが(「読売」11月25日)、ガイドライン十年目にして遂に、「軍部」が

全国運動情報センター
青木雅彦(京都市)

本音で語り始めたわけだ。しかもこれは単なる「研究」ではない。来秋の「太平洋演習」(前回「にゆうすすびりつと」参照)への日本の参加とセットになった文字どおりの「実戦」のための作戦研究である。

極秘裡に進められる戦争計画

「ガイドライン」に基づく「研究」は次のものが行われていることが明らかにされている(内容に関しては極秘)。

- ①「日米共同作戦計画」。日本が「侵攻」されたときの対処。84年11月一応終了。
- ②「シーレーン防衛研究」。83年3月から着手、86年11月終了。
- ③「極東有事研究」。朝鮮半島有事」を想定したものと思われる。82年1月から、現在も研究中?
- ④「インターオペラビリティ(相互運用性)研究」。作戦、情報交換、装備の共通化。87年1月から「研究を一層推進」で合意。

これらの研究が相互に密接な関連があることは言うまでもない。どれを取っても大変な

内容であることは想像に難くないが、この中身については国会にすら報告されていない。わずかに②の研究の一部が予算獲得のため一部マスコミにリークされ、「シーレーンが破壊され、北海道北部が占領される」という「衝撃的内容」が明らかになった(「読売」87年1月6日)程度だ。ただしこの研究も民間人の被害については全く関心がないようだ。

更に「有事米援研究」も年内着手

「有事」とは米軍にとつての「有事」であることを率直に認めたからには、日本側には今一步の「努力」が要請される。今年一月の瓦・カルーチ会談で米軍の「有事米援を円滑にする」ための研究推進で合意したが、早くも防衛庁はこれをガイドラインに基づく日米共同研究として「年内にも」着手する方針を固めたという(「日経」11月6日)。この研究は米軍物資の日本への「事前集積(POMCUS)」を前提にしたものであり、これは直ちに米軍の行動を円滑にするための「有事立法」を義務づけることになる(この点については稿を改めたい)。

ガイドライン締結から十年。我々の前に極東での核戦争のための、演習(太平洋演習)、研究、法制の「三種の神器」が勢揃いした。(一九八八年十二月十二日記)

非核の国 ニュージー ランドの 草の根 平和運動(4)

山田紀子



私がニュージーランドに向けて日本を発つた昨年五月十四日のちようどその日、南太平洋のフィジーで軍事クーデターが起きた。

太平洋のことがよく見える

ニュージーランドに着いて驚いたのが、新聞・テレビなどあらゆるメディアが、この事件をトップ・ニュースとして大きく報じてい

ることだった。フィジーがどこにあるのかということさえ知らなかったわたしは、おかげでこの国の歴史・産業・民族問題などを聞きかじることになったが、改めて太平洋地域の問題に対する日本人としての無知さを痛感した。同時に、ニュージーランドにみると、(地球の裏側から)太平洋のことがよく見えるという事実にも気づかされたのだ。

マオリの立場

わたしの住んでいたオークランド市は、先住民マオリや太平洋諸島出身の人々が人口の二十五%を占める、南太平洋随一のポリネシア民族多住都市である。彼らが都会に集まるのは、いずこも同じく職を求めてのことであるが、失業率が高く文化風習の異なる白人社会では、やはり下層の労働力として組みこまれていくケースが多い。

十九世紀初頭、イギリスがニュージーランドに入植を始めてから、マオリは先祖伝来の土地を奪われ、戦争や白人の持ち込んだ伝染病で命を奪われ、文化的な誇りとアイデンティティをも奪われてきた。彼らが自国の主権者として、差別や土地問題、文化遺産の継承などにとりくみ、白人社会の中にもそれへの関心が高まってきたのは、ここ数年のこと

しかない。こういう歴史があつてみれば、マオリん民族運動家たちが、幅広い草の根性を持つニュージーランドの平和運動をも、「あれは白人の運動だ」と言う意味が、おぼろげながらわかつてくる。

非核独立の太平洋を!

目を太平洋に転じてみれば、フィジーをはじめニューカレドニア・仏領ポリネシア(タヒチ)・ペラウ等、核大国の抑圧に苦しむ国は数多い。彼らにとつて「非核」の願いは即「独立」と結びついたものだ。

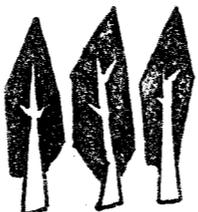
これは、植民地化された経験のない白人社会の人間(日本人もこの範ちゅうに入れてよいだろう)には非常に実感しにくいことではある。シドニーの「非核独立太平洋運動」の



専従エレメ・ウエランさん(白人女性)は、「十年来この運動にかかわってきましたが、太平洋における民族独立の問題を本当に「一頭でなく心で」わかるようになったのは、最近のことです」と語っている。

にしてくれる「ものであるならば、太平洋のあちら側の人々を視野から切りはなしてしまふのでなく、こちら側にいるわたしたちからも手を差しのべてしかるべきであろう。「あすにでも核戦争は起こるかもしれないが、こんなにちただいま苦しんでいる人々がそこにはいる」のであるから。(つづく)

全国会議 に参加して



松田健二
熊本・農業

(十一月二十一日記)

東京駅に着いて、神田君と別れて秋葉原まで乗りつく。病院で人工透析を受けるためです。あらかじめ申し込んであった東神田クリニックは街角一つ曲がった駅から五分ぐらいのところ、すぐ見つかりました。熊本では六時間でやるところを、ここでは四時間透析が普通のため、終わったときには、軽い頭痛や足のけいれんなど、かなりしんどい思いをしました。七日にもう一度同じ病院でやってもらったのですが、今度は先生にお願いして三十分延長してもらいました。

今回の旅行の最大の目的である反トマの全

国会議には前夜の透析の疲れが残る中、翌五日の朝十時半にすこし遅れて到着したわけです。町田は、かつて...といっても、もう十数年前のことですが、友人が国士館大学にいたころ会いにきたことがあるのですが、その時の大学の軍隊なみの校風に驚いたものです。

私は耳が少し悪いので、会議などでは、人の発言を聴きとれないことが多々あるのですが、今度の生活クラブ生協の二階の会場は、床に吸音材を敷きつめてあって、非常に聴きとりやすく助かりました。ところが、言葉は

ニュージーランド
出前します
各種資料・ピースグッズ・ピースチョコなどを持って、学習会やスチヨコなどを持ち、学習会や集会に出向きます。連絡は、〇四五(四九一)三三四八、または千二二二 横浜市神奈川区二本榎五高橋方まで返信用切手同封でどうぞ。

聴きとりやすかったのですが、その内容たるや、初参加の悲哀か、はたまた日頃の学習と活動量の不足からか、どうにも具体的な意味をつかみとることが困難で、前夜からの疲れも加わって、ときどき居眠りしてしまったりして、全国の参加者の前で醜態をさらしてしまいました。

会議に参加して強く感じたのは、反トマ全国運動が世界の反戦・反核・独立の運動と深く連動しているということです。私はかつてのニュージーランドでの米核疑惑艦に対する無数ともいえるヨットやゴムボート等による入港阻止闘争に大感激したのですが、この戦法がもともと佐世保で最初に採用されたのだということは知らなかったもので、驚きまななて、聞いただけでも元気が出てくる話で

会計報告

(88.11.17 ~ 12.13)

[収入]

○前月からの繰越		△455,585*
經常繰越	△ 79,585*	
借入金繰越	△376,000	
○今月の収入		371,747
会費収入		143,000
維持団体	4,000	
維持個人	66,000	
参加団体	0	
参加個人	46,000	
通信会員	27,000	
カンパ収入		218,447
在庫品売り上げ		2,100
反核ホットライン		
売り上げ		8,200

[支出]

●今月の支出		137,408
家賃(12月分)		40,000
水道光熱費		5,828
電話代		11,280
郵送費		36,460
印刷代		41,610
行動費		1,500
郵便振替手数料		730
●次月への繰越		△221,246
經常繰越	154,754	
借入金繰越	△376,000	

*これらの数字は前号に記載したものと異なっていますが、過去1年間の計算をチェックした結果、何度か計算上の間違いがありましたので、今月号で訂正させていただきました。おわびします。(会計 M)

編集後記

す。一緒に行った熊本市民センターの神田君のシドニー会議の様様を写したスライドを見ても分るように、反トマの運動も米軍の世界戦略に依りて世界各地の人々の連帯によって強化されている訳です。それと韓国からの初参加がなされたことも運動のこれからを考える時、非常に大きい意味があったと思います。九州ではいま、原潜を支援するVLF・超長波送信所の建設が進められています。佐世保の佐々木さんが言うように、佐世保港への米原潜の入港の増加にも危機感を覚えます。極東における海洋の核汚染というか、核配備が進む中、今回の全国会議に初めて参加して、各地の人と交流でき、勇気づけられて帰ってきました。来年は長崎で開催されるとのことです。再び皆さんと逢える日が楽しみです。

今年も残すところあとわずか。毎度のことながら、あつと言う間の一年でした。年は明けても恋あり夢あり仕事ありの中で、運動に追われる日々は、まだまだ続きそうです。未筆ながら読者のみなさんのご健闘をお祈りします。

(か)



おびびるといふ

第三十六号(十月二十日発行)の平良曉生さんの文章「平和船団のふしぎ」の中に以下の誤植がありましたので訂正します。

「八ページ上段四行目から」

(誤)：私たちの生命も当然！核の恐怖から何としても守らなければならない筈なのですから。

(正)：私たちの生命もそして警察の人たちの生命も当然！核の恐怖から何としても守らなければならない筈なのですから。

この文章の核心ともいえるべき部分での誤りでした。平良さんには紙面を借りておわびいたします。(編集部)

月刊反トマホーク通信 第三十八号

一九八八年十一月二十日発行(通巻三十九号)

*発行 トマホークの配備を許すな！全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五一九
 パル青山五〇二 トマ喰い虫社

〇三(四九八)六〇九五
 〇四四(六三)五一〇一

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)